

当事者意識を高める平和教育 ～明石市内の高等学校での実践を用いて～

関西学院大学 総合政策学部 国際政策学科

井上裕充

目次

- 研究の背景
- 研究の目的
- 研究の流れ
- 平和教育授業の作成にあたって
- 平和教育授業の実施にあたって
 - 第1回目の授業案
 - 第2回目の授業案
- 平和教育授業の評価にあたって
 - 第1回目の授業評価
 - 第1回目の授業評価のまとめ
 - 第2回目の授業評価
 - 第2回目の授業評価のまとめ
 - 平和教育授業全体の評価
- まとめ
- 参考文献

研究の背景

我が国は戦後80年が経過し、戦争が人々にとって単なる過去の出来事になりつつある。

教育現場でも、平和教育の指導について難しさを感じる教員が6割いる(NHK, 2023)。

「平和な世の中になりすぎて戦争が架空のこと、遠い昔の出来事としてうまく伝わる感じが持てない。戦争の話題にトラウマを持つ児童や、児童のしている様子からうまく伝わっているのか不安になる」

研究の目的

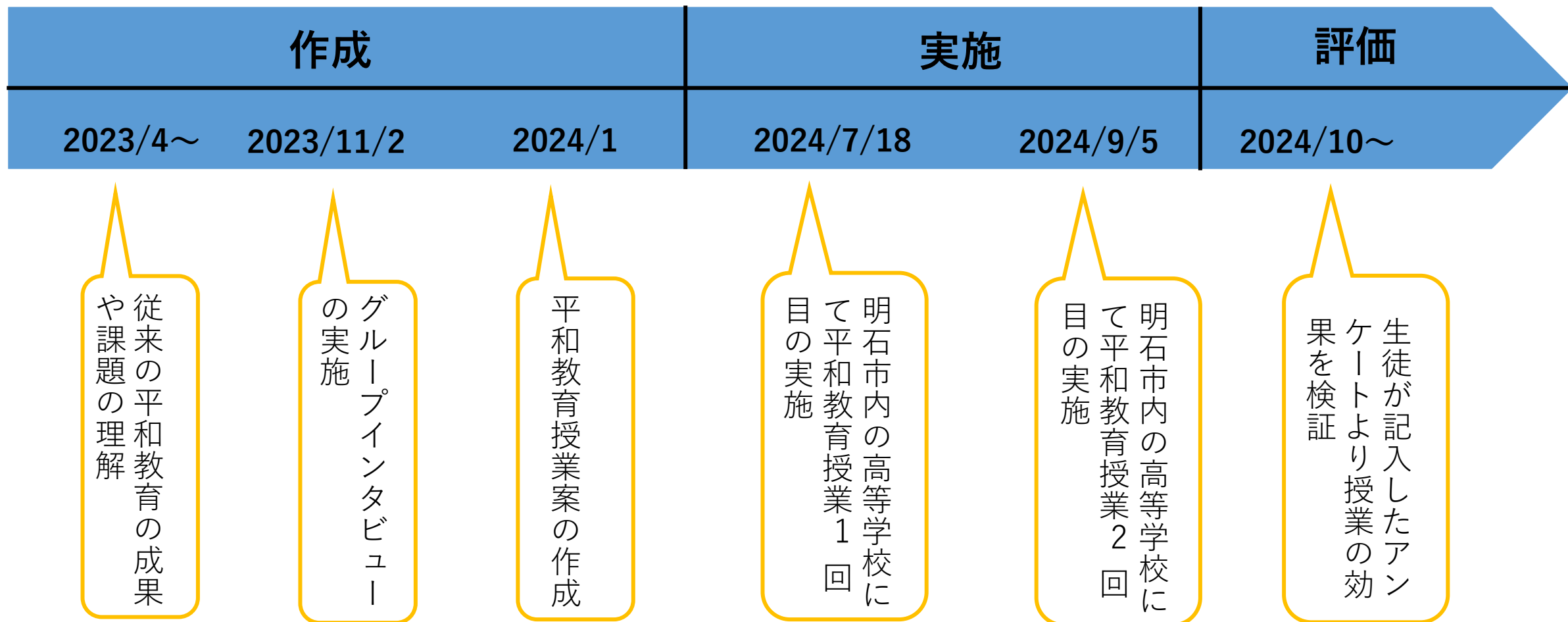
研究の目的

**平和に対する当事者意識を高められるような平和教育授業を
作成・実施・評価すること**

平和教育授業の対象：戦争体験第四世代(2006年～2040年
生まれの者)

当事者意識：自分とは無関係だと決めつけず
「自分事」とすること

研究の流れ



平和教育授業の作成にあたって

当事者意識を高めるために必要な要素

- 学習者が身近に感じられる戦争や出来事について学ぶ機会があること。
- 平和創造ができるような実践的な機会を設けること。
- 平和や戦争について考える機会を増やし、繰り返し学習すること。
- 戦争に対して批判的な感情で終わるのではなく、そこから平和へのプロセスを考えられるものであること。

平和教育授業の実施にあたって

【日時】

2024年7月18日(10:50~12:40)

2024年9月5日(10:50~12:40)

【場所】

明石市内の高等学校内 教室

【協力者】

兵庫県立明石市内高等学校に所属している37名の生徒である。

男女の内訳は、男子が12名で女子が25名である。

生徒らは、2008,2009年生まれの戦争体験第四世代である。

平和教育授業の実施にあたって

第1回目の授業－明石空襲の疑似体験

【目的】

学習者がロールプレイによる疑似体験を通して、当時の明石市民の気持ちになって考え、寄り添い、戦争や平和に対する当事者意識を高めることである。



第1回目の指導案

	配時	学習内容・学習活動	指導上の留意点
導入	10 分	- 自己紹介 - アイスブレイク (1) 平和とはどのような状態のことを言うか？ 自分が考える平和な社会を発表する。 (2) 平和のシンボルクイズ 原爆ドームやひめゆりの塔などの平和・戦争の遺跡をどの程度知っているのかを確認する。	○平和に対する考えを整理させる。 ○平和や戦争の知識の確認をする。
展開	60 分	- 授業者によるプレゼン (1) 明石市の空襲についての知識 (2) 戦前の明石市の様子 (3) なぜ明石市が狙われたのか (4) 戦時中の人々の暮らし - ロールプレイ (1) 当時の人々になったつもりで、地図を用いて日時・天候などの情報を基に、どこかの防空壕に逃げるのかを決めて非難する。 (2) 空襲の規模と逃げた先の被害状況などの説明を聞く。	○写真などを用いて、想像しやすいように説明する。 ○関西で初めて狙われた場所が明石である事とその理由を強調して説明する。 ○授業者が当時の天候や気温等の状況を短い劇で伝える。 ○落とされた爆弾の数や重量、相手国の狙いなどを説明する。
終末	20 分	- アンケートの記入 - 授業者からのまとめ	

平和教育授業の実施にあたって

第2回目の授業ーガルトゥングの平和理論

【目的】

ヨハン・ガルトゥングの3つの暴力の型と積極的平和の概念を理解し、身近な出来事やニュース等を3つの暴力の視点から批判的に考え、戦争・平和に対する当事者意識を高めることである。



第2回目の指導案

	配時	学習内容・学習活動	留意点
導入	10分	- 自己紹介 - 前回の授業の振り返り 問い 平和とはどのような状態だと思うか？	○明石空襲の内容を復習させる。 ○これまでに受けた平和教育の成果を確認する。 ○内容に入る前に、生徒に平和に対する考えを整理させる。
展開	60分	- 授業者によるプレゼン (1)ガルトゥングの平和理論の導入 (2)「クリスマスのオフィスにて」を鑑賞 (3)3つの暴力の詳細な説明 (4)黒人奴隷貿易やオリンピックでの誹謗中傷等の出来事を3つの暴力の観点から見る。 - 班でのワークショップ (1)歴史的事実や時事問題などを取り上げ、どのような暴力が存在しているのかを考える。 (2)全体で共有する。	○ビデオ鑑賞の前に、概念の説明をする。 ● 3つの暴力の型(直接的、構造的、文化的暴力) ● 消極的平和(直接的暴力の不在) ● 積極的平和(直接的、構造的、文化的暴力を克服した状態) ○ビデオの内容を再度確認する。 ○具体的な例を出しながら説明する。 ○具体的なトピックで暴力の概念の理解を深める。 ○この後、生徒ら自身で3つの暴力を考えるワークを行うと知らせる。 ○班で話し合うよう促す。 ○3つの暴力が正しく考えられているかを確認する。 ○他の班の意見を聞き、交流させる。
終末	20分	- アンケート記入 - まとめ	○ガルトゥングの平和の理論をもう一度振り返り、自分自身の生活と結び付けられるよう促す。

平和教育授業の評価にあたって

【アンケート概要】

1回目の授業後と2回目の授業後にアンケートをとる。
総データ件数は、2回合わせて72件であった。

1回目のアンケート内容

選択式：戸籍上の性別、これまでに受けた平和教育の内容

記述式：今回の授業を受けて考えたこと

2回目のアンケート内容

記述式：全2回の授業を受けて考えたこと

第1回目の授業評価

ロールプレイによって多くの生徒が当時の人々に自分自身を置き換えて考えることが出来ていた。

〈コメント1〉

ロールプレイをしてみて、**いざ自分がその状況だったら、まず警告が鳴っても信じない可能性があるなと思ったし、どこに逃げるのが正しいのかも分からない**と思った。恐ろしい兵器を作って人をころしてまでも、工場をつぶしたり、戦争をする社会が残酷だと感じた。

〈コメント2〉

空襲が起きてしまったらどこに逃げるのかを冷静に考えて行動に移すということが大切なんだと思います。**もし、私が当時の人みたいに空襲が起きてしまったら、どこに逃げるのかという冷静な判断はできないだろうなと思いました。**

第1回目の授業評価

〈コメント3〉

今日はある程度情報があって、考える時間もあったけど、実際に警報が鳴ったらパニックで冷静に考えることも難しかったと思います。・・・今日のような体験活動で戦争のことに触れるたび、戦争の恐ろしさや人の命の尊さを再認識し、もう二度と繰り返さないという意識が強まります。

〈コメント4〉

いざ予想するとなると、どこに逃げれば良いか全然検討もつかなくてとても難しかったです。当時の人は毎日こんな風におびえながら過ごしていたのかと思うととても心が痛くなります。もう二度と戦争を起こしたくないし、世界からも戦争が無くなって誰もが平和に生きられる社会になって欲しいと思いました。

→強い反戦的意志を芽生えさせている。

→ロールプレイは、戦争や平和に対する感情に訴える役割を果たしている。

第1回目の授業評価

ロールプレイで戦争体験者の気持ちになって考えられたことで、戦争や平和についてもっと学びを深めたいという生徒もいた。

〈コメント5〉

空襲はどこに落とされるかも分からないし、いつどこで起きるかも分からないので、とても恐ろしいなと感じました。自分で逃げる場所を決めるのはとても難しいことだと思いました。**もう少し平和について学んだり考えたりしたいと思いました。**

〈コメント6〉

もし自分が当時生きていたら、パニックだと思うし、生き延びられていないのかなと感じた。**今日の授業を受けて改めて平和について考えさせられた。もっと平和について考えたいと思った。**

→ロールプレイは、生徒の平和を学ぶ意欲を引き出すことに効果があった。

第1回目の授業評価

生徒の学ぶ意欲を引き出すことが出来たのは、ロールプレイの形式のみの効果ではなく、その中で採用した題材も重要である。

〈コメント7〉

空襲と聞くと東京や神戸をイメージしたが、実際には明石にも被害があったと聞いて驚いた。戦争となると、どうしてもどこか他人事になってしまうが、今日のように実際にあったことを想定して自分で考えることでいかに恐ろしいものであるかとうことが分かった。・・・**平和になるためには、自分がまず世界の争いについて知り、学ぶことも大切だと思った。**

〈コメント8〉

明石に住んでいるのに、明石空襲のことを初めて知りました。当時、どんな状況だったのかを知れたことによって**もっと明石で起こったことについて知りたいと感じたり、自分以外にも知らない人がいたら伝えたいなと感じました。**

第1回目の授業評価

〈コメント9〉

私は初め明石空襲のことについて全く知らなかったけど、この2時間で新しい知識を知ることが出来て、とても良かったです。・・・実際、その場にいたら正しい場所へ逃げられていたかと聞かれると、パニックになり、逃げるのが遅くなってしまうと思いました。・・・今では、戦争を実際に経験された方が少なくなってきているので、**自分たちが小さい子たちに伝えられるようになりたいと思います。**

平和や戦争について学ぶことへの意欲を示しただけでなく、自ら平和形成の方法を見出していたり、「伝承者になりたい」といった平和への行動意欲も高まっている。

→生徒にとって身近に感じられる場所をロールプレイの題材として採用することが重要である。

以上が、ロールプレイの果たす正の効果である。

第1回目の授業評価

一部の生徒は、ロールプレイを「楽しかった」と記していることから、ゲーム感覚で行っていたと考えられる。

〈コメント10〉

昔自分の住んでいるこんな近くで空襲があったのを初めて知りました。ロールプレイでは・・・いい経験になったと思います。また班の中でここに出ている3つの選択以外でそれぞれ自分だったらここに行きそう、**私は川に飛び込むなどを話し合えたのも楽しかったです。**

〈コメント11〉

私は明石でこんなに大きな空襲があったことを知らなかったけど、全国で5位に入るほどすごかったんだなと分かりました。・・・この空襲でかなりの人が亡くなっていることや、なぜ明石が狙われたのかが分かりました。**とても分かりやすい説明でゲームも楽しかったです。**

第1回目の授業評価

ロールプレイをゲーム感覚で捉えられた要因として、ロールプレイの忠実性が関係していると考えられる。

〈コメント12〉

今私たちは安全な場所で友達と一緒にじっくり考えながら逃げる場所を決めたけど、実際にはパニックの中もしかしたら、一人で逃げる場所を直ちに決めないといけなくなると思うので、判断力が必要だと思いました。・・・まさかレーダーがうまくうつらなくて間違えて公園に落としてしまうなんて誰も想像できないと思いました。

〈コメント13〉

ロールプレイをした時、実際に逃げるわけではないから、天気や現在地を見て、冷静にどこに逃げるか考えることが出来たけど、実際に逃げなければいけない時はどこが近いとか少ない判断材料であまり考えずに決めてしまいそうだと思いました。

→明石空襲を想定し、防空壕に逃げるという内容は、その当時の状況と教室とでは乖離が生じる。

→ロールプレイを行う際は、生徒にその当時の状況をどれほど忠実に想像させられるかが重要

第1回目の授業評価まとめ

生徒が身近に感じられる場所を題材として採用したロールプレイを行うことで、生徒らが当時の明石市民に寄り添う姿勢をみることが出来た。

また、生徒の中には平和の形成や行動意欲に結びつけられている者もいた。

しかし、その内容は戦争について語り継ぐというような一般的な提案に留まった。

→戦争体験継承に関する当事者意識

第2回目の授業評価

平和に対する考え方に変化がみられる生徒が多かった。それは、授業内でガルトゥングの平和に対する考え方の「消極的平和」と「積極的平和」の概念を紹介したためであると考ええる。

〈コメント14〉

今まで平和といえば戦争がないこととと思っていましたが、そうではないことを今回知って、自分たちが分かっているだけで自分たちの行動や言動により、平和を崩していると思いました。

〈コメント15〉

平和な社会は、戦争がない社会ということだと思っていたけど、授業を通してそれだけではないことに気付くことが出来た。もっと日本が経験した戦争について資料館に行って学んだり、調べたりすることが大切だなと思った。

→生徒らがこれまでに受けた平和教育は狭義的なものであったと確認できる。

第2回目の授業評価

今回の授業では、「積極的平和」の概念とガルトゥングの3つの暴力の型を説明した。

また、生徒自身が関心のあるニュースや歴史的事実について3つの暴力の観点から批判的にみるというワークショップを行った。

→生徒らは、平和とは何かについてより深く考察できており、平和形成についてより多様な方法に気付くことが出来ていた。

〈コメント16〉

三つの暴力が重なって世のパワハラや戦争などの事件が起きてしまっているのかなと感じました。・・・**直接的暴力に当てはまる行動をせずに生活していきたい。構造的暴力と文化的暴力については気づきにくいが気づかなければならないものだと感じました。**

第2回目の授業評価

〈コメント17〉

私は今までの授業を通して、平和とは暴力がないということを知りました。**3つの暴力を少なくするには偏見を無くすことが大切だと思いました。**・・・完全にはいかないけど、少しずつ差別などが無くなればいいなと思います。

〈コメント18〉

平和な世界を作り、誰もが幸せに暮らすためにはどうしたらいいかを考えたとき、戦争をなくすことのもっと先に暴力を無くすことがあったと思いました。・・・だから、**私は受け入れる心を大事にしよう**と思いました。・・・**お互いを受け入れ合い認めることが平和への第一歩になればいいなと考えました。**

生徒らは、社会が平和かどうかみる際に偏見、差別、相手を認めるのか否かということも関係しているという、より深い考察をしている。

第2回目の授業評価

この深い考察に至ったのは、いじめや差別のように自分の生活と結びつけやすいという意味での身近な内容を題材として採用したためであると考える。

〈コメント19〉

授業の最初、平和とは「争いのないこと」だと思っていた、どこか自分ではどうしようもないと感じていたけど、3つの暴力を知って考え方が変えられた。今思うと確かに、**戦争も学校のいじめや争いの規模が大きくなった**だけで、本質は同じなのかなと思う。

さらに、生徒にとって身近に感じられる生活上のテーマであったからこそ、日頃の自分自身の行動を顧みている者や平和に関連する行動を起こす意欲を示している者も多かった。

第2回目の授業評価

〈コメント20〉

この世の中には私がまだ知らない争いや3つの暴力がたくさん存在していることに気付けた。・・・私も他人を傷つけないためにも、**3つの暴力は何かを考え、少しでも減らして平和な社会づくりに貢献していきたい。**

〈コメント21〉

私は、今現在、**ネット等で問題になっている事柄に着目し、暴力の種類分けをし、問題解決に繋がる糸口を探していけたら**と思いました。

生徒らは平和な社会を築く一員として、自らに出来ることを考えられている。

→平和を創造する力を育めたことを意味している。

→平和創造に対する当事者意識

第2回目の授業評価

平和創造に対する当事者意識を高められたのは、平和を理想的なものではなく、現実的に考えているためであると考える。

その一方で、平和を現実的に考えているがゆえに、平和を実現することの困難さを述べている生徒もいた。

〈コメント22〉

前回と今回の授業を受けて思ったことは、自分が考える平和を他の人、例えば友達や外国人が思う平和は違うから、・・・**平和って難しいなと考えました。**

〈コメント23〉

前までは、戦争がなければ平和だと思っていたけど、今回の授業を通して貧困や格差もあってはいけないし、それらも無くしないと平和とはいえないんだなと思いました。・・・**そう考えると、地球全体が平和になれる日はくるのかな？と不安になりました**が、みんなが3つの暴力などの考え方を通して、少しずつ平和について意識を向けていくことで改善されていくのかなと思いました。

第2回目の授業評価のまとめ

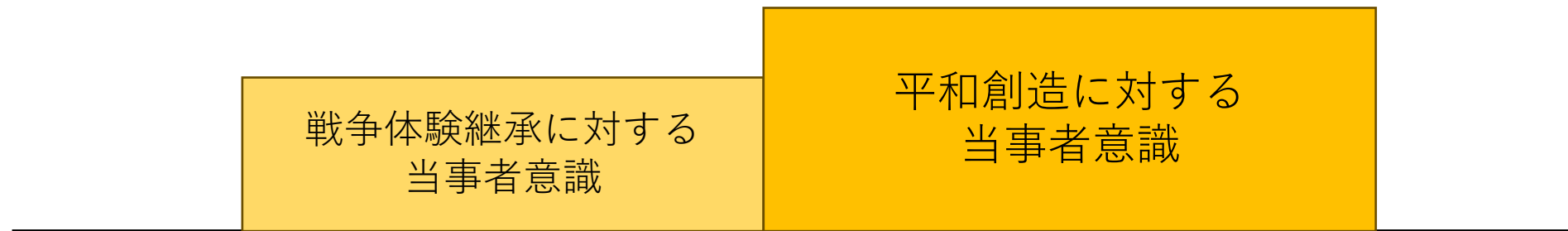
生徒の平和に対する考え方が広がり、日常と結びつけて考えられたことで、自身との心理的距離が縮まり、平和創造に対する当事者意識を高めることが出来た。

これにより、多くの生徒が1回目の授業時より平和形成に貢献する具体的な行動を考えることが出来ていた。

平和教育授業全体の評価

全2回の授業は、学習者の平和に対する当事者意識を高めることに効果的であることが明らかとなった。

また、その当事者意識には2段階あることも明らかとなった。



まとめ

1回目の授業→戦争体験継承に対する当事者意識の向上

2回目の授業→平和創造に対する当事者意識の向上

平和創造に対する当事者意識を向上させた方が、より具体的な平和形成方法を考え、行動意欲を掻き立てられた。

→これからの平和教育には、戦争体験継承に対する当事者意識の向上を図るカリキュラムも重要ではあるが、より重要視すべきは平和創造に対する当事者意識を養うカリキュラム編成であると考ええる。

ご清聴ありがとうございました。

参考文献

明石市史編さん委員会(1999)「明石市史」『明石市』.

池野範男(2009)「学校における平和教育の課題と展望：原爆教材を事例として」『広島大学平和科学研究センター』42巻, 400-412.

井上裕充(2024)「これからの平和教育の在り方」『関西学院大学総合政策学部進級論文』.

大阪府(2009)「平和教育の指導にあたって『平和教育に関する事例集より抜粋』」
(<https://www.pref.osaka.lg.jp/o180080/shochugakko/heiwashidou/index.html>) 2024年11月18日閲覧.

沖縄県(2024)「平和を求める心」(<https://www.pref.okinawa.jp/kyoiku/kodomo/1002705/1002710.html>) 2024年11月17日閲覧.

小倉亜紗美(2014).「短期留学プログラムを通じた広島大学「平和教育」の試み」『広島平和科学』第36巻,pp.117-126.

外池智(2016)「継承的アーカイブの活用と『次世代の平和教育』の展開－広島『平和教育プログラム』の実践－」教育実践研究支援センター『教育実践研究紀要』第38号.

外池智(2019)「戦後70年における『次世代の平和教育』-広島、長崎を事例として」『日本平和学会』

参考文献

- 高部優子, 奥本京子, 笠井綾(2022)「平和創造のための新たな平和教育：平和学アプローチによる理論と実践」『法律文化社』.
- 多田孝志(2012)「当事者意識」『明石書店』 p131.
- 竹内久顕(2011)「平和教育を問い直す：次世代への批判的継承」『法律文化社』 pp8-10.
- 日本経済新聞(2022)「「終戦」前生まれ、人口の14%に減少」
(<https://www.nikkei.com/article/DGKKZO63461310V10C22A8CM0000/?msockid=1851a0c93565661e2a05b17634b76704>) 2024年11月11日閲覧.
- 広島県教育委員会ホームページ(2016)「ESD実践事例 平和教育」
(<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/kyouiku/heiwakyoikujissenjirei.html>) 2024年11月17日閲覧.
- 平和政策研究所(2020)「平和の概念再考：平和学における和解の位置づけ」
(<https://ippjapan.org/archives/1633>) 2024年12月10日閲覧.
- 村上忠明(2014)「平和教育の今日的視点：歴史変遷と諸外国の動向をふまえて」『同朋大学論叢』 98巻, 48-32.

参考文献

- 村上登司文(2006)「平和形成方法の教育についての考察：中学生の平和意識調査を手がかりに」『広島平和科学』28巻, 27-44.
- 村上登司文(2017)「平和教育学の展開」『平和教育学事典』7巻, 1-8.
- 村上登司文(2018)「戦争体験を第4世代（次世代）に語り継ぐ平和教育の考察」『広島平和科学』40巻, 33-50.
- 村上登司文(2022)「2000年代の日本の平和教育-社会学的研究方法による分析」『平和研究』58巻, 143-161.
- ヨハン・ガルトゥング, 村上登司文, 児玉克哉, いとうたけひこ, 近藤考弘, 小原友行(2011).「教育と平和構築(公開シンポジウムⅡ, 日本教育学会第69回大会報告)」『教育学研究』78巻1号, pp.59-63.
- NHK(2024)「『慰霊の日』～祈りに包まれる1日を伝える～」
(<https://www.nhk.or.jp/okinawa/lreport/article/001/63/>) 2024年11月17日閲覧.
- NHK(2023)「『独自アンケート』どうする平和教育 学校現場の苦悩」
(<https://www.nhk.or.jp/minplus/0121/topic004.html>) 2024年11月25日閲覧.